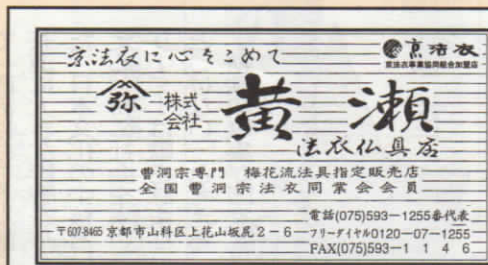


- 14面 わくわく趣味
長岡 千尋さん
いきいき健康
熊谷 義弘さん
- 15面 図書室・私の一冊
作島 寛さん
店員おすすめ・書肆散策
- 16~17面 図書室・書評
- 18面 教へのミュージアム
萬福寺文華殿

悠ゆう 心楽々

中外プラスB

- 19面 寄稿エッセー
大野 裕之さん
- 20面 食風土記
蕎麦



又笥と呼ばれる専用のヘラで慎重に和紙を骨に固定する竹澤さん



骨に和紙を貼る胴張りど緊張

竹澤さんは、40〜70本に及ぶ竹の骨を組み上げる「下事」、骨の間隔を均等に振り分けて調整する「まくわり」、骨の間隔の固定などを目的に傘の外周に軒紙を貼る「軒紙張り」など、完成までお

おむね10の工程がある。この中で最も難しいのが、日吉屋は現在では数少ない和傘の修復も請け負っている「胴張り」と竹澤さん。作業では又笥と呼ばれる専用のヘラで糊を塗った骨に和紙を固定させていく。職人の仕事から「学んでい

入社9年目の竹澤幸代さん(31)は京都府南丹市の京都伝統工芸大学校で竹工芸を専攻。在学中に日吉屋の職人である同校の先輩を手伝ったことが縁で同じ道を歩むことになった。

「失敗すると糊の跡が残る、和紙を取り換えなくてはならないので、やり直しが利かない。特に神経を使います」と言う。職人の減少で師事する人の思いが伝わってくる気が

もともと、それを支えるのが伝統的の和傘製造の技術であることは言うまでもない。若き当主のもとに集うのは30代を中心とする若手職人4人。和傘製造の衰退に伴う職人の減少で分業が難しくなっており、一人で全ての工程を担う。

が少なくても苦労の一つだ。日吉屋は現在では数少ない和傘の修復も請け負っている。古い和傘が「教材」の役割を果たす側面もあるという。「骨の組み方や和紙の貼り方など(昔の職人の仕事から)学んでい

京和傘 竹澤 幸代さん (日吉屋)

時代劇や歌舞伎などでおなじみの和傘は、平安時代初期頃に原型となる傘が中国から伝来したとされる。権威の象徴などとして使用

されたという。開閉の仕組みが開発されたのは安土桃山時代のこと

で、製造工程の分業制が発達した江戸時代中期以降に庶民に普及した。ただ、浮世絵の美人画に見られるように、単なる雨具としてだけ

でなく、様々な意匠をこらしたファッションの小道具、あるいは茶道のしつらえなどとしても取り入れられて

製造・販売しているのは、日常用の番傘や艶やかな装飾の蛇の目傘、屋外の茶席のしつらえとなる野点傘など

製造・販売しているのは、日常用の番傘や艶やかな装飾の蛇の目傘、屋外の茶席のしつらえとなる野点傘など

匠に技あり

老舗の伝統を受け継ぐ若手職人



製作中の野点傘(左)と寺社の儀式で用いられる祭典傘(右)。直径はそれぞれ約180センチと約140センチ。竹澤さんは「祭典傘には魔よけの意味もある」と言う

する。修理後、顧客に納品した際に掛けられる感謝の言葉が何よりの励みで、「新調する場合も修理の場合も」長く使っていただけのように思いを込めて作業しています」と語った。

和傘は寺社の儀式でも使用される。大法要の庭儀や祇園祭などで高僧や稚児に差し掛けられる大型の傘が代表例で、近年では神前結婚式で新郎新婦が移動する際にも用いられる。

これらは祭典傘と総称されるが、儀式の演出や装飾だけでなく、魔よけの意味もある。「それは場を結界するものとも言える。使う方々をその意味でも守る傘を作っていくには」とほほ笑んだ。(池田圭)

熱線の職人が造る最高の逸品

寺院用仏具製造直販 **クマダ**

http://www.jiin.co.jp/

mail: info@kk-kumada.com 寺院クマダ 検索

名古屋市熱田区千年1-7-14 TEL: 052-653-4600